百年前頃の上海の景観言語と景観文字の記述研究

A Descriptive Study of Linguistic Landscape in Early Modern Shanghai

彭　国　躍

（要旨）
本論は，歴史社会言語学の視点から，百年前頃の中国上海の都市形成期における言語景観を記述するものである。まず，筆者が収集し整理した，1880～1910 年間に撮影された写真映像を提示し，そこに映った景観言語，景観文字の記録と解説を行った。そして，記録された言語データに基づいて，当時上海の共同租界における言語選択，表現内容（構造と意味の分析）と表示形態（景観文字の書体，サイズと配置）の実態を記述した。記述のプロセスにおいて，言語選択と産業形態，公的多言語表示と路名管理，ローマ字表記と方言の顕在化，固有名の字義的意味と文化的価値観，文字書体の選択と規範意識，文字の表示形態と建築様式など，過去の言語景観によって可視化された言語と社会との相互作用，相互関係の一側面を明らかにした。

キーワード：歴史社会言語学　言語景観　景観文　可視性　顕著性

1. はじめに

言語景観は，近年ことばと社会の関係を示すバロメータとして注目され，それに関する研究調査も言語接触，言語威信，言語政策と移民問題など多くの関連分野とのかかわりにおいて新しい展開を見せながら，さまざまな問題や課題を提起している。言語景観の研究をさらに深めるためには，より多くの異なる時代，異なる社会の言語景観の事例収集，実態把握と記述分析が求められる。

本研究は，歴史社会言語学の視点から，写真映像を通して，百年前頃の中国上海の都市形成初期頃における言語景観，それに反映された景観言語，景観文字の運用実態を明らかにしたいと思う。

2. 研究背景と先行研究

人間の言語活動は，話しことば（spoken language）と書きことば（written language）という 2 つの異なる顕現様式（manifestation）を持っている。発生的には，書きことばは話しことばを土台に発展してきたものだが，話しことばと書きことばは，その伝達手段の違いによりそれぞれ異なる特徴と機能を持っている。話しことばは，聴覚に依存し，「話す」行為による音声発信と「聞く」行為による音声受信によって情報の伝達が行われる。その音声を媒介とする性質から「音声言語」とも呼ばれる。一方，書きことばは，視覚に依存し，「書く」行為による文字発信と「読む」行為による文字受信によって情報の伝達が行われ，その文字を媒介とする性質から「文字言語」とも呼ばれる（Crystal 1987：177-179，田中 1988：343-344）。文字言語の研究対象は，さらに書籍，文書，日誌，手紙など紙媒体を

主とする「文献文字」と，看板，標識，碑文，落書きなど非紙媒体を主とする「景観文字」の 2 つに分けられる。文献文字によって記録されたことばは「文献言語」，景観文字によって記録されたことばは「景観言語」と呼ばれる（高田 2011：150）。言語活動における情報伝達の方法や表現形態などの諸要素の関係について，以下のように図示することができる。

言語活動
- 話しことば――聴覚依存
  - 発信――話す
  - 受信――聞く
  - ＝音声言語
- 書きことば――視覚依存
  - 発信――書く
  - 受信――読む
  - ＝文字言語

文字言語
- 文献文字――紙媒体（書籍，文書，日誌，手紙など）――文献言語
- 景観文字――非紙媒体（看板，標識，碑文，落書きなど）――景観言語

文献文字を通しての文献言語の研究は，従来の言語学・文献学（philology）研究と共に長い歴史を持っている。18 世紀の後半から比較言語学や歴史言語学の興起により，文献言語の研究が深まると共に，音声言語への関心が高まり，20 世紀初頭頃から Bloomfield（1933）の主張に代表されるように，音声言語は現代言語学（linguistics）の主な研究対象として位置づけられるようになった。20 世紀後半になると，談話研究において，さらに発話時の声の調子，話すテンポ，間の取り方，言い淀みやフィラーなど音声言語特有の性質が研究対象に加わるようになった。一方，公共空間に現れる文字言語としての景観言語は，景観文字が持つ可視性（visibility），顕著性（salience）の特徴が重要視され，視覚依存における「見る」行為の伝達機能がより注目され，表現内容の外に，多言語化現象，文字形態や表示ポジションなど景観言語特有の可視的性質が考察の対象となった。

景観文字を通しての景観言語の研究は，20 世紀末頃，Landry & Bourhis（1997）によるカナダの言語景観の分析を嚆矢に，社会言語学の新しい研究領域として生まれ，世界的に広がり始めた。21 世紀に入ると，言語景観の研究は，イスラエル（Ben-Rafael et al 2006），バンコク（Huebner 2006），東京（Backhaus 2007），エチオピア（Lanza and Woldemariam 2009）など世界各地で言語景観データの収集，分類と社会言語学的解釈が行われるようになった。言語景観研究の主な成果として，海外では Shohamy,E. & Gorter,D.（eds）（2009）と Gorter, Marten & Van Mensel（eds）（2012）が上げられるが，前者には，言語景観研究の理論や方法論の探究，言語政策，アイデンティティとのかかわりについての論考が展開され，後者には，言語景観とイデオロギー，言語政策および東ヨーロッパの多言語社会における言語景観の実態についての考察が含まれる。日本では庄司，バックハウス，クルマス（編）（2009）と中井，ロング（編）（2011）が上げられ，前者には理論的，歴史的考察と日本各地の言語景観に関する実態調査が含まれ，後者にはニュージーランド，EU の少数派言語や中国，韓国などを含む世界各地と日本での言語景観調査報告および調査方法の解説と展望が含まれる。

中国の言語景観に関する先行研究としては，米・岸江（2010），江（2011），張（2011），彭（2015）が上げられるが，米・岸江（2010）は，上海地下鉄駅（5 路線 21 駅）周辺の案内板と道路標識を中心に，その言語景観の実態調査を行ったが，江（2011）は，上海，香港，東京，大阪を含む 4 都市 16 地域の言語景観に現れる地域の言語と英語の使用状況に関する統計データの比較分析である。張（2012）

は，歴史資料調査と現場資料調査の 2 つの部分により構成され，歴史調査では 11 世紀頃の宋代，16 世紀の明代と 18 世紀の清代の絵画に見られる市街地の看板表示を概述し，現場調査では中国東北地域の都市ハルビン市とチャムス市における言語景観の状況を報告した。彭（2015，2017）は，上海の言語景観の歴史的変遷を辿り，マクロとミクロという 2 つの視点から通時的記述研究を行った。マクロの視点では同じ街路の言語景観全体のイメージの変化，ミクロの視点では同一店舗や同一壁面に現れた景観言語，景観文字の変化を記述した。特に 1949 年の社会主義革命が起こる前と起こった後，1976 年の改革開放政策が実施する前と実施した後における同一場所の言語景観の変化について詳しく考察した。

本論は，先行研究の成果を踏まえながら，歴史的言語景観に関する横断的研究を展開し，百年前頃の写真映像に基づく言語景観の事例記録と実態記述を行うものである。

3. 本研究の概要

3.1 写真資料の時代背景

百年ぐらい前の近代中国は，清王朝（1636～1911）から中華民国（1912～1948）へと国家体制が大きく移り変わる時代であった。アヘン戦争後の 1842 年に清朝政府とイギリスとの間で「南京条約」が結ばれ，それにより上海は通商開港の地となった。1845 年租界開設とその後の度重なる拡張と増設により，欧米の人や物と共に，西洋の社会や経済の仕組み，建築や生活の様式などが押し寄せた。1850 年代頃太平天国と小刀会の乱により上海の周辺地域から富を持つ人々や一般庶民が庇護を求めて租界に流入した。上海の租界地区はしだいに当初の『租地章程』（1845 年）に規定されたイギリス人居住地から大きく変容し，1863 年の共同租界の設立以降上海はますます中国文化と西洋文化の衝突と融合の先頭に立つようになった。

19 世紀の中頃から世界ではカメラの発明，改良と普及に伴い，映像文化が興起し，歴史記録の新しい時代が始まった。上海の都市景観の形成時期はほぼカメラが中国に持ち込まれた時期と重なっていた。その頃の上海の景観は，訪れた旅行探検家，外交官や商人などによりカメラに収められていた。これらの写真は上海の都市形成過程における最も古い時代の映像で，上海の言語景観の歴史を研究する上で欠かせない貴重なデータソースとなっている。本研究は 1880～1919 年，つまり清王朝最後の 32 年と中華民国最初の 8 年を合わせた 40 年間の写真を対象とする。

3.2 本研究の方法

言語景観の全体像を正確に捉えるためには，Hult（2009：101）が指摘したように，質的分析と量的分析を併用することが方法論的に望ましい。歴史的な課題については，考古学や歴史学がすでに実践しているように，まず発見された 1 つひとつの文物や史料に基づく質的研究が先行する必要がある。歴史的な言語景観に関する写真映像は，かつてそのような景観が確実に存在したことを証明し，消えた歴史的事実への洞察を可能にしてくれるので，それが歴史社会言語学において大きな重みをもつことは明らかである。歴史写真に映った言語景観は，その場所，時期，規模，数量などにおいて偶然性は避けられない。そのため，ここで厳密な意味において定量的な統計が求める同質条件による数値の比較分析はかなり困難である。しかし，発見された映像データに対する数量統計は，当時上海の言語景観のごく一部の状況しか反映されないが，それを通して消えた歴史的事実を推測し，推定するための 1 つの重要な参考係数を提供することになることは間違いない。したがって，本研究は，発見された映像内の言語や文字の統計分析を踏まえながら，質的な分析，つまり写真に映った個々の景観言語，景観文字の事実に対する記述と考察に力点を置くことにする。

言語景観の研究では，一般的な傾向として都市景観が主に扱われる。都市の言語景観には，商業施設

の看板，道路標識や各種政治的，宗教的な掲示物などさまざまな要素が含まれるが，言語景観が映った歴史写真には市街区の商店街における看板が大きなウェートを占めている。そのため，本論の考察も結果として主に上海の商店街南京路とその周辺の商業施設の看板や表記にフォーカスを当てることになる。

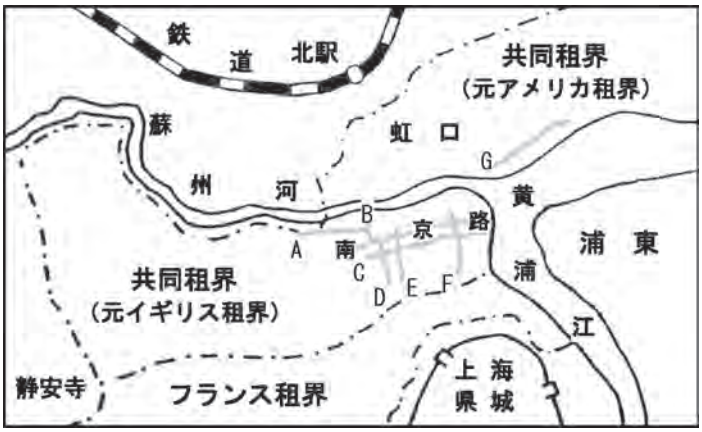
3.3　本研究の構成

本研究は基本的に次の3つの部分によって構成される。

⑴　写真映像の収集と整理

近代都市としての上海は，図1が示すように，一部の旧市街地（かつての上海県城内，現黄浦区の一部）を除き1845年の開港以降に形成した租界地域である。

図1[1]



A 新閘路，B 勞合路，C 九江路，D 雲南路，E 廣西路，F 河南路，G 百老匯路

筆者は，書籍，雑誌，絵葉書など各種出版・印刷物やネット検索画像から上海の歴史的言語景観写真を566枚収集したが，そのうち1880～1919年の間の撮影と推定されたものは38枚である。本論で使用される写真（25枚）は，すべてその中から画像が比較的に鮮明で，文字情報がある程度読み取れ，映像内容に重複がないものを選んだものである。当時の上海には共同租界とフランス租界があったが，25枚の写真はすべて共同租界内，主に南京路とその周辺地域で撮影されたものである。特定できる写真地点の道路は図1に示した南京路とA～Gの7本である。出典文献に具体的な撮影年が明記された場合は信頼性を確認した上でその記述に従うが，撮影年が不明なもの，明らかに記載に誤りがあるものまたは複数の文献に異なる表記があるものについては，筆者がその画像内容（道路，交通機関，電力施設の建造年代，商店の創設年代，国旗および人物の衣装や辮髪などの要素）に基づいて推定した。

写真の収集と整理の過程において景観の文字情報が確認できるように，一部必要に応じて余白のカットなど画像の拡大処理を行った。

⑵　景観内容の確認と記録

文字情報の確認には主に2つの方法が使われる。1つは不鮮明な文字画像の拡大や旗の反対側の文字の反転などによる確認作業，もう1つは角度が異なる複数の写真による文字の照合作業である。歴史文献に掲載された情報も参考となるが，本論文で議論の対象となる景観文字の情報は写真映像で確認されたものに基づく。

本論では，1880～1919年の40年間を1つの共時態として捉え，その間に撮影された言語景観の事例を同一時代のものとして扱う。選定された25の写真事例を写真撮影年代順に排し，写真に映った景観

言語，景観文字の情報とそれぞれの意味内容，表示形態や配置場所などについて記録と解説を行う。

⑶　景観言語，景観文字の実態の分析と考察

最後に，記録されたデータに基づき，百年前頃の上海の景観言語，景観文字を分析し，それに反映された言語選択の実態とその社会的関数要因，景観言語の表現内容とそれに反映された社会的，文化的要素，そして文字の表示形態（書体，サイズ，配置など）を含む可視性，顕著性の特徴について考察する。

4. 言語景観事例の記録と解説

【写真①】撮影時期：1880 年頃。撮影場所：南京路・廣西路交差点。撮影者：不詳（姚 2010：278）。

写真①

記録と解説：馬車製造工房「昇大」の店頭映像である。右側が南京路に面した正面玄関で，玄関中央の 2 階に設置されたメイン看板は英語で表記されているが，その内容はガス灯の柱に遮られ読み取れない。メイン看板の両側と左側 2 階の壁には中国語店名「昇大」がそれぞれ大きく表記される。右端の 2 階の窓下には「修造馬車」（馬車修理と製造）と書かれている。（右から読む文字の配列は当時の縦書きのルールに従い 1 字ごと改行したことにより形成された横表示である。以下同）。写真中央の 2 階窓下の壁には南京路旧名「PARK LANE」の頭文字と住所番号と思われる英数字「P494」が表記される。左（廣西路）側の 2 階窓下には英語「(C) ARRIAGE FACTORY」（馬車工場）と表記されている。（推定される文字は括弧付きで表示する。以下同）。

【写真②】撮影時期：1890 年。撮影場所：南京路。撮影者：John Charles Oswald（イギリス商人，1897 年オランダ駐福州領事就任）（劉 2012：142）。

写真②

記録と解説：写真左側は食品雑貨店「大生」の正面映像である。この店は，道路に面する側が高い壁に覆われ中央の門を潜らないと店内の様子が見えない閉鎖型店舗の建築様式である。店の入口上方には店名「大生號」が刻まれている。入口両側の白壁にはそれぞれ「浙甯茶食」（浙江と寧波の茶菓子），「閩廣洋糖」（福建と広州のキャンディー）と大きく書かれている。漢字 1 つのサイズは通行人の背丈との比較でほぼ 1 メートル四方と推定される。「大生號」の右側は建築様式の異なる開放型店舗の衣料品店で，店頭の横断幕には「成字〇洋〇〇莊」の一部の漢字しか見えないが，縦の吊るし看板には「鏡面大呢」（光沢ウール），「花素鈕扣」（模様ボタン）などと表示されている。（「〇」は 1 文字の内容が不明な部分を示す。以下同）。

【写真③】撮影時期：1895 年。撮影場所：南京路。撮影者：不詳（仝 2016：304）。

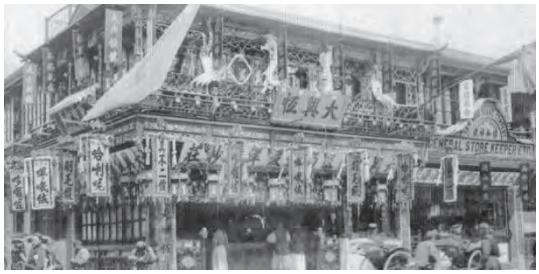
記録と解説：写真館「耀華」（1892 年開業）の正面映像である。店のメイン看板には「SZE YUEN MING PHOTOGRAPHER」（施雨明写真館）と記されている。固有名の部分「SZE YUEN MING」は店主（施徳之 1861～1935）の別名「施雨明」の広東（粤）方言音のローマ字表記である（仝 2016：301）[2]。入口の両側の縦看板には対句形式で，左は「耀華號最考究拍小像」（耀華館が撮影した写真がもっとも意匠を凝らしている），右は「耀華號最精巧放大像」（耀華館が拡大した写真がもっとも精緻を極めている）と書かれている。

写真③

【写真④】撮影時期：1900 年頃。撮影場所：租界内。撮影者：不詳（姚 2010：28）。

記録と解説：衣料品店「大興恒」と雑貨店「協和祥」が立ち並ぶ映像である。左側の衣料品店の 2 階にはメイン看板「大興恒」が掲げられ，その下には店名の全称「大興（恒）號洋（貨）抄莊」（大興恒西洋輸入品販売店）が表示され，1 階の店頭先には縦看板が 10 本ほど吊るされ，それぞれには商品名「哆囉呢」（ビューティウール），「哈喇呢」（ダークウール），「嗶嘰絨」（毛織），「羽毛緞」（シルク）と商品宣伝「真不二價」（本物，値引き無用）などと書かれている。右側の雑貨店中央には，主に英語によるメイン看板が掲げられている。真ん中には中国語店名「協和祥號」，その上には英語表記「YA HOO SIANG COMPANY」（協和祥会社），「GENERAL STORE KEEPER ETC」（雑貨屋）と書かれている。店名「協和祥」のローマ字表記「YA HOO SIANG」には福建（閩）方言音の特徴が見られる。

写真④



【写真⑤】撮影時期：1900 年頃。撮影場所：南京路。撮影者：不詳（姚 2010：278）。

記録と解説：画面右側の 3 階建て店舗は貴金属装飾品店「費文元」（1896 年開業）である。中央入口の上方に設置された横看板はメイン看板で，そこには固有名「費文元」と書かれ，3 階中央の横看板には屋号の「裕記」が記されている。縦看板は 2 種類あり，1 種類は 1 階中央入口の両側にかけられたもので，両側とも店名「費文元銀樓」が記されているが，もう 1 種類は階ごとの吊るし看板で，それには店名「文元裕記銀樓」，「文元銀樓」，商品名「滿漢首飾」（満州族と漢民族のアクセサリー）やサービス内容「加煉修業」（改造修理），「兌換赤金」（純金両替）などが記されている。画面左側は隣接雑貨店で，メイン看板には「新泰祥」と記され，2 階の縦看板には「新泰祥號」，1 階店頭の横断幕には店名全称として「新泰祥號東西洋貨（抄莊）」（新泰祥東西輸入品販売店）と記されている。

写真⑤

写真⑥

【写真⑥】撮影時期：1900 年頃。撮影場所：南京路。撮影者：不詳（松原 1901 口絵部分）。

記録と解説：閉鎖型店舗が 2 軒並ぶ光景が映り，右側の店舗は漢方の薬屋「呉益生」，左側は食品雑貨「邵萬生」である。薬屋の入口上方には店名「呉益生堂」，両側の袖看板には「呉益生堂藥舗」，入口両側の外壁には「（各）省藥材」（各省の薬材），「人參鹿茸」（高麗人参，鹿角），「丸散（膏）丹」（練薬，粉薬，膏薬，錠剤），「虎鹿諸膠」（虎骨と鹿角エキスのにかわ）と大きく記される。食品雑貨店の入口上方には店名「邵萬生號」，外壁には「兩洋海味」（東洋と西洋の海産物），「閩廣洋糖」（福建と広東のキャンディー），「浙甯茶食」（浙江寧波の茶菓子），「南北雜貨」（南北の雑貨）と大きく書かれている。両店舗の右端には「申兩店再無分出」（上海両店舗の外に支店はない）と記されている。右端の吊るし看板には「質」と書かれ，隣接の質屋のものと見られる。

写真⑦

【写真⑦】撮影時期：1900 年頃。撮影場所：南京路。撮影者：不詳（姚 2010：273）。

記録と解説：閉鎖型店舗が 3 軒立ち並ぶパノラマ映像である。左側の店舗は，漢方の薬屋で，店名は判別できないが，入口の両側の壁には薬品種類「丸散膏（丹）」，「各省藥材」と書かれている。中央店舗の名前も見えないが，入口両側の壁に「自運川碭名土」（当店調達良質の土砂），「揀選大小洋（貨）」（精選各種舶来雑貨），「川廣桐油」（四川と広東の桐油）と書かれることから，土木建材店と見られる。右側の店は酒，醤油，酢，味噌などを販売する醸造食品店で，正門上方には固有名「張振新」と記され，右端の壁面には「官醬園」（公認醸造店）とだけ大きく書かれている。「官醬園」3 文字の幅は約 2 メートル，高さは約 3 メートル以上と推定される。

写真⑧

【写真⑧】撮影時期：1900 年頃。撮影場所：南京路。撮影者：不詳（姚 2010：278）。

記録と解説：左側の店舗は貴金属装飾品店「楊慶和」で，右側の店舗は衣料品店「大源祥」である。装飾品店の 2 階窓上にはメイン看板「楊慶和銀（樓）」が設置され，入口両側には縦看板「慶和銀樓」が掲げられている。2 階の吊るし看板には「朝頂束帶」（男性装身具），「鳳冠霞珮」（女性装身具），「兌換赤金」（純金両替），「滿漢首飾」（満洲族，漢民族のアクセサリー），「慶和銀樓」と記されている。右側の衣料品店の 2 階のメイン看板には「大源祥號」，3 階の中央看板には「真不二價」（本物，値引き無用），吊るし看板には「泰西綢緞」（西洋シルク），「海虎絲絨」（毛織）とそれぞれ記されている。

写真⑨

【写真⑨】撮影時期：1900年頃。撮影場所：南京路573号。撮影者：不詳（李2006：136）。

記録と解説：英米人オーナー（LL.Hopkins と J.J.Gilmore）の写真用品店（1900年開業）の正面映像である。入口の真上には横に伸びる凸型のメイン看板が設置されている。看板の中央上部には英語で「PHOTO SUPPLIES KODAKS ETC.」（写真用品，コダックなど）と書かれ，その下には創業者らの名に因んだ固有名「DENNISTON & SULLIVAN」が表記されている。入口両側のショー・ウインドーの上にも英語の看板があるが，左側の文字内容の一部は不明だが，中央には「ARTS & CRAFTS」（美術工芸品），右側には「KODAKS FILMS ETC」（コダックフィルムなど）と記されている。角度の異なる別の写真で確認したところ，この店の正面左側の2階の窓枠の上にもメイン看板よりも大きい看板「PHOTO SUPPLIES」（写真用品）が設置されている。

写真⑩

【写真⑩】撮影時期：1901年。撮影場所：勞合路（現六合路）・南京路交差点。撮影者：不詳（Bennett 2014：33）。

記録と解説：写真館「麗華」（1898年開業）の店頭映像である。2階バルコニーの外側の正面と側面に「麗華照像放大公司」（麗華撮影拡大会社），その下には小さな英文字で「LAIWAH PORTRAI（T）」（麗華肖像写真）と表記されている。固有名ローマ字表記「LAIWAH」は広東方言の発音に基づくものである。1階の店頭外壁の正面には縦書きで「麗華照像放大公司」，同店の右側壁には宣伝文「巧拍小像」（精巧に写真を撮影する），「精放大像」（精緻に写真を拡大する），「善畫油像」（立派に油彩肖像を描く），左端の2階バルコニーには「香港分此」（香港店の支店）とそれぞれ書かれている。1階角の壁面上方に路名標識が付けられ，上が英語，下が中国語で，左側は「LLOYD ROAD 勞合路」，右側は「NANKING ROAD 南京路」となっている。

写真⑪

【写真⑪】撮影時期：1901年7月16日。撮影場所：南京路・雲南路交差点。撮影者：不詳（鄧1996：62）。

記録と解説：自転車販売店の店頭映像である。入口上方にメイン看板が掲げられ，角度の異なる他の写真で英語の使用が確認されているが，その表現内容は判別できない。2階の正面と側面の壁面にはいずれも商店の固有名「踏飛」と業種名「脚踏車行」（自転車屋）が書かれ，1階の正面と側面には，一部の文字は判別できないが，同じ内容で「本行在名廠（製造）頭等脚（踏車），久已中外馳名比衆格外○○」（本店の自転車は有名メーカで製造された高品質のもので，すでに国内外で名を馳せ，他の店より格別に……）と書かれている。左側の壁には路名標識がつけられ，上が英語「YUNNAN ROAD」，下が中国語「雲南路」と表記されている。

写真⑫

【写真⑫】撮影時期：1902 年。撮影場所：南京路 371～373 号。撮影者：不詳（劉，凱倫 2010：61）。

記録と解説：パン屋と新聞社が入る商業用雑居ビルの正面玄関の映像である。写真中央のパン屋の正面壁には中国語で商品名「麵包」（パン），「食物」（食べ物），パン屋の右隣で 1 階の新聞社正面には横看板に「繁華報館」（繁華新聞社）と書かれる。2 階の新聞社看板と 1 階入り口の両側には中国語名「蒙學報館」（蒙学新聞社）と記されている。右端の窓枠の上には，内容は不明だが，英文字が使用されている。

写真⑬

【写真⑬】撮影時期：1905 年頃。撮影場所：南京路。撮影者：不詳（姚 2010：275）。

記録と解説：食品雑貨店「易安」と衣料品店「大彰」の正面映像である。両店舗とも店頭中央上方外壁にメイン看板が配置され，それぞれ店名「易安」と「大彰」が記されている。吊るしの縦看板には「易安」店では「中西茶（食）」（中国と西洋の茶菓子），「〇〇糖菓」（…飴菓子），「大彰」店では布地「哆囉呢」（ビューティウール），「嗶嘰絨」（毛織），「羽毛緞」（シルク）などの商品名が書かれている。「大彰」店の 1 階店舗の天井近くにも横看板が配置されているが，文字内容は判別できない。

写真⑭

【写真⑭】撮影時期：1905 年 12 月 18 日。撮影場所：南京路 373 号。撮影者：不詳，（1906 年 2 月 3 日のフランス新聞「L'ILLUSTRATION」掲載，徐 2011：227）。

記録と解説：写真⑫とは異なる角度から撮影された同一の雑居ビルの玄関映像である。左側中央はアメリカ人オーナーの自動車販売会社「Ford Hire Services」（「雲飛」）の事務所店舗である。店舗には中国語と英語の 2 言語表示が採用されている。2 階中央の壁には中国語固有名「雲飛」が縦書きのメイン表示として大きく記されている。その上にはローマ字表記「YUEN FIE...C」，その下には，内容は判別できないが，英語の説明文と思われる文章が表記されている。写真の右端はパン屋と新聞社で，その言語表示の一部は写真⑫と重なる。

写真⑮

【写真⑮】撮影時期：1905 年 12 月 18 日。撮影場所：南京路 375，374 号。撮影者：不詳，（1906 年 2 月 3 日のフランス新聞「L'ILLUSTRATION」掲載，徐 2011：227）。

記録と解説：イギリス人オーナーのタクシー会社「LEE.TAI」の正面映像である。並ぶ 2 軒の店頭には 2 種類の看板が映

り，左側は壁文字，右側はメイン看板で，いずれも英語の固有名「LEE.TAI」と表記されている。メイン看板の下に小さな英文字が書かれているが，内容は判読できない。

写真⑯

【写真⑯】撮影時期：1900 年代。撮影場所：河南路。撮影者：不詳（横浜開港史料館 1993：83）

記録と解説：日本人オーナー（明治実業家岸田吟香 1833～1905 年，洋画家岸田劉生の父）の書籍・薬品店（1880 年開業）の正面映像である。店頭看板 5 ヶ所の内 4 ヶ所が中国語，1 ケ所が日本語の漢字表記である。そのメイン看板には「樂善堂書葯房」（楽善堂書籍薬品店），その下の大きなサブ看板には「（海）運東西兩洋各種藥料從廉批發」（東西各種輸入薬材の安価卸売），縦のサブ看板には「樂善堂老葯房」（楽善堂老舗薬屋）とそれぞれ中国語で表示されている。入口の左側には日本語による漢字表記「東京三共株式会社製品特約店」が示され，入口の右側には，左側の日本語看板より小さく作られた縦看板が立てられ，そこには中国語「東京製藥公司総經理處」（東京製薬会社総経理部）と記されている。

写真⑰

【写真⑰】撮影時期：1900 年代。撮影場所：南京路。撮影者：不詳（中華網／老照片圖庫／老上海照片）

記録と解説：衣料品店「元昌成」と「増泰西」の正面映像である。右側の店舗中央上方のメイン看板には「元昌成」，1 階店頭の軒下の横断幕には店名全称「元昌成號洋貨抄（莊）」（元昌成西洋輸入品販売店）と記されている。1 階の軒先には縦の吊るし看板が 4 枚かけられ，そこにはそれぞれ横書きの「元昌成」の下に商品名「哈喇呢」（ダークウール），「羽毛緞」（シルク），「嗶嘰絨」（毛織），「哆囉呢」（ビューティウール）と記される。2 階上の屋根下に宣伝看板「真不二價」（本物，値引き無用）と書かれている。左側の店舗の横断幕には「増泰（西）洋貨（抄）莊」，縦看板には「嗶吱絨」（毛織），「羽毛緞」，「哆囉呢」と書かれている。右端の靴屋「大同」の吊るし看板には「西式名履」（西洋ブランドシューズ），「文武官鞋」（各種フォーマルシューズ）と書かれている。

写真⑱

【写真⑱】撮影時期：1900 年代。撮影場所：九江路 23 号。撮影者：不詳（上海圖書館所蔵／上海歴史圖片）。

記録と解説：衣料品店「老介福」（1860 年開業）入口の映像である。正門上方の壁面は店名「老介福」が刻まれている。入口両側の縦看板と左側の壁面に店名全称「老介福綢緞局」が書かれている。入口付近 4 個所の中国語表示はすべて店名情報である。正面玄関の左右と左側の壁面の 3 個所には，英語の看板が取り付けられ，拡大画像で「老介福」の福建（閩）方言音表記「LAU KAI FOOK…」が確認できる。

写真⑲

【写真⑲】撮影時期：1906～09 年。撮影場所：租界内。撮影者：不詳（程 2012：26）。

記録と解説：貴金属装飾品店「寶成」の正面映像である。入口上方と両側には「寶成銀（樓）」と記され，正面 2 階窓の上には「大東門分此」（大東門店の支店）と記される。吊るし看板には商品とサービス内容「朝頂束帯」（男性装身具），「滿漢首飾」（満州族と漢民族のアクセサリー），「兑換赤金」（純金両替）が記される。

写真⑳

【写真⑳】撮影時期：1908 年。撮影場所：百老匯路。撮影者：不詳（Arnold Wright.（ed.）1908：294）。

記録と解説：ドイツ人オーナー（W.Fütterer）の牛肉屋（1903 年開業）である。メイン看板にはドイツ語「SCHLACHTEREI W.FÜTTERER」（W.FÜTTERER 肉屋）と大きく表示され，その入口の右柱には中国語店名「徳隆牛肉荘」の縦札が小さく表示されている。

写真㉑

【写真㉑】撮影時期：1909 年。撮影場所：河南路 33 号。撮影者：不詳（李 2006：99）。

記録と解説：服屋「萃豊」の正面映像である。2 階のバルコニーから店名「萃豊綢緞衣荘」（萃豊絹織服屋）と書かれた旗が掲げられ，店の中央上方のメイン看板には「萃豊衣荘」が表示され，入口の両側の壁には木彫りの文字「萃豊衣荘」と「綢緞衣局」がそれぞれ配置されている。2 階の袖看板には「（萃豊）綢緞衣荘」，軒先の吊るし看板には 4 枚とも「萃豊衣荘」と記されている。各種看板や旗を含む 9 個所にはほぼ同じ内容の店名情報が繰り返し表示されている。

写真㉒

【写真㉒】撮影時期：1909 年。撮影場所：租界地内。撮影者：Thomas C. Chamberlin（1843-1928 アメリカ人地質学者）（伊 2012：214）。

記録と解説：租界地内にある商店街の一角である。左中央の店は酒屋で，店頭上方に設置されたメイン看板には店名「京東明酒棧」（京東明酒屋）が記されている。1 階店頭の軒先には縦看板が数枚吊るされ，それぞれには横書きの固有名「京東明」の下に大きく酒の銘柄「紹酒」「京荘」「高粱」が縦書きで記されている。右端の道路中央に伸ばして垂れる書画表装店の旗には，横書き店名「慶華堂」と「專做」（専門店）の下に縦書きで「軸對」（対の掛け軸）と書かれている。店頭には縦看板「慶華堂裱對」（慶華堂表装）と「慶華堂圖屏」（慶華堂屏風絵）が吊るされている。酒屋と表装店の間にもう一軒の店があり，店名は不明だが，その旗の裏側には「○○老店　鶏蛋餅　○○分行」（…老舗　たまご煎餅　…支店）と記され，画面左端の縦看板には「老徳成染坊」（老徳成染屋）と記されている。

【写真㉓】撮影時期：1910 年代。撮影場所：新閘路。撮影者：不詳（姚 2010：524）。

記録と解説：閉鎖型店舗と住宅が立ち並ぶ光景が映っているが，店舗の入口上方には「余永泰」と記され，両側の壁には店名「永泰」「官醬」（公認醸造）と書かれている。通行人や門構えとの比較で漢字 1 つのサイズは約 3 メートル四方と推定される。

写真㉓

【写真㉔】撮影時期：1910 年代。撮影場所：南京路。撮影者：不詳（朱 2014：84）。

記録と解説：ユダヤ系ハンガリー人オーナー（Isidor.Komor）の骨董・土産品店の正面映像である。メイン看板には英語の店名「KUHN & KOMOR」と業務内容「DEALERS IN CURIOSITIES」（骨董商）が表示されているが，店舗の左右両側に中国語の縦看板が掲げられ，右側は店名「康茂洋行」，左側は業務内容「專辦貢禮」（土産品専門）と表示されている。

写真㉔

【写真㉕】撮影時期：1919 年。撮影場所：南京路。撮影者：不詳（史 1996：124）。

記録と解説：洋裁店「瑞泰」の正面映像である。店舗 2 階外壁のメイン看板中央にはローマ字店名「SAE（TA）I」と大きく表示され，その両側には英語の業務内容「TAILOR AND BREECHES MAKER」（洋裁，ズボン製作）と「OUTFITTER AND MILLINER」（紳士服，婦人帽製造）が表示され，さらにその両端には中国語店名「瑞泰」が記される。2 階の壁 2 ヶ所に「瑞泰」と書かれている。1 階の店頭上方に英語の業務内容「WOOLLEN MERCHANTS」（ウール卸売），柱壁には「時式西（服）」（ファッション洋服），「高等呢絨」（高品質ウール）と表記されている。2 階の窓からは旗が垂れ，それにはスローガン「齊心協力，堅持到底」（一致団結し，最後まで頑張ろう）と書かれている。

写真㉕

5. 景観言語・景観文字の分析と考察

言語景観は，2. の研究背景で述べたように，公共空間に現れた文字言語の一形態である。百年前の上海の都市公共空間に現れた言語景観にはどのような言語事実が反映され，その言語事実が社会とどうかかわっていたかについて，これから具体的な分析と考察を行う。まず，以上の写真映像を通して記録されたすべての可視的言語情報を表 1 のようにまとめる。（以上の記録と解説では，映像で隠れた一部の文字情報について，他の写真や文献で確認された場合括弧付きで示したが，これからは括弧を外して表示する。表 1 の括弧内の数字は同じ表現内容が同一の写真映像の中で重複して現れた場合の数量を表す）。

表 1

写真	撮影時期	撮影場所	言語表示の内容 〔店名，会社名，商品名，業務内容，広告，路名，スローガンなど〕
①	1880 年頃	南京路・廣西路	昇大（2），修造馬車，CARRIAGE FACTORY，P494
②	1890 年	南京路	大生號，成字○○洋○○莊，浙甯茶食，閩廣洋糖，鏡面大呢，花素鈕扣
③	1895 年頃	南京路	SZE YUEN MING PHOTOGRAPHER，耀華號最考究拍小像，耀華號最精巧放大像
④	1900 年頃	租界内	大興恒號（3），大興恒，大興恒號洋貨抄莊，協和祥號，YA HOO SING COMPANY GENERAL STORE KEEPER ETC，哈喇呢，羽毛緞，嗶嘰絨，哆囉呢，真不二價
⑤	1900 年頃	南京路	費文元，裕記，費文元銀樓，文元裕記銀樓，文元銀樓，新泰祥號，滿漢首飾，加煉修業，兌換赤金
⑥	1900 年頃	南京路	呉益生堂，呉益生堂藥舗，邵萬生號，人參鹿茸，丸散膏丹，虎鹿諸膠，兩洋海味，閩廣洋糖，浙甯茶食，南北雑貨，申兩店再無分出，質
⑦	1900 年頃	南京路	張振新，官醬園，丸散膏丹，各省藥材，自運川碭名土，揀選大小洋貨，川廣桐油
⑧	1900 年頃	南京路	慶和銀樓（2），楊慶和銀樓，大源祥號，朝頂束帶，鳳冠霞珮，兌換赤金，滿漢首飾，泰西綢緞，嗨虎絲絨，真不二價
⑨	1900 年頃	南京路	DENNISTON & SULLIVAN，PHOTO SUPPLIES KODAKS ETC，ARTS & CRAFTS，KODAKS FILMS ETC
⑩	1901 年	勞合路・南京路	麗華照像放大公司（3），LAIWAH PORTRAIT（2），巧拍小像，精放大像，善畫油像，香港分此，LLOYD ROAD 勞合路，NANKING ROAD 南京路
⑪	1901 年	南京路・雲南路	踏飛脚踏車行（2），本行在名廠製造頭等脚踏車，久已中外馳名比衆格外○○（2），YUNNAN ROAD 雲南路
⑫	1902 年	南京路	蒙學報館（3），繁華報館，麵包，食物
⑬	1905 年頃	南京路	易安，大彰，中西茶食，○○糖菓，哆囉呢，嗶嘰絨，羽毛緞
⑭	1905 年	南京路	雲飛，YUEN FIE...C，麵包，食物
⑮	1905 年	南京路	LEE.TAI（2）
⑯	1900 年代	河南路	樂善堂書葯房，海運東西兩洋各種藥料從廉批發，樂善堂老葯房，東京製藥公司総經理處，東京三共株式会社製品特約店
⑰	1900 年代	南京路	元昌成（5），元昌成號洋貨抄莊，増泰西洋貨抄莊，哈喇呢（2），羽毛緞（2），哆囉呢（2），嗶嘰絨，嗶吱絨，真不二價
⑱	1900 年代	九江路	老介福綢緞局（3），老介福，LAU KAI FOOK…
⑲	1906～09 年	租界内	寶成銀樓（3），大東門分此，朝頂束帶，滿漢首飾，兌換赤金
⑳	1908 年	百老匯路	SCHLACHTEREI W.FÜTTERER，徳隆牛莊
㉑	1909 年	河南路	萃豊衣莊（6），萃豊綢緞衣莊（2），綢緞衣局
㉒	1909 年	租界内	京東明（3），京東明酒棧，慶華堂，老徳成染坊，紹酒，京莊，高粱，専做對軸，慶華堂圖屏，慶華堂裱對，○○老店，鶏蛋餅，○○分行
㉓	1910 年頃	新閘路	余永泰，永泰官醬
㉔	1910 年代	南京路	KUHN & KOMOR，DEALERS IN CURIOSITIES，康茂洋行，專辦貢禮
㉕	1919 年	南京路	瑞泰（4），SAETAI，TAILOR AND BREECHES MAKER，OUTFITTER AND MILLINER，WOOLLEN MERCHANTS，時式西服，高等呢絨，齊心協力，堅持到底

以下，写真映像と表1の記録データに基づき，「言語選択」，「表現内容」および「表示形態」という3つの視点から，当時上海の言語景観に反映された景観言語と景観文字の実態を考察する。

5.1　言語選択

5.1.1　多言語使用の実態

多言語使用の実態の観察には，2つの，互いに関連性を持ちながら視点が異なる統計データを用いる。1つは個々の店舗に現れた言語選択の状況，もう1つは言語別にまとめられた店名の分布状況である。

まず表1のデータに基づき，写真に映った店舗の言語選択の状況を表2のようにまとめる。25枚の写真には34の店舗が映っているが，同じ写真に複数の店舗が映る場合，その写真番号と映像内の位置（[左]，[右] など）で表示する。ここでは店舗を単位とするので，写真㉒左端の「老徳成染坊」のように1枚の看板のみ映り店舗全体の映像が映っていないものは1店舗としてカウントせず表2から外している。

表2

<table>
<tr><th colspan="2">言語</th><th>写真事例</th><th colspan="3">店舗数</th><th colspan="3">%</th></tr>
<tr><td rowspan="2">1言語</td><td>中国語</td><td>②［左］，④［中］，⑤，⑥［左，右］，⑦［左，中，右］，⑧［左，右］，⑫［上，下］，⑬［左，右］，⑰（左，右），⑲，㉑，㉒［左，右］，㉓</td><td colspan="3">21</td><td colspan="3">61.8</td></tr>
<tr><td>英語</td><td>⑨，⑮</td><td>2</td><td rowspan="5">11</td><td rowspan="5">13</td><td>5.9</td><td rowspan="4">32.4</td><td rowspan="5">38.2</td></tr>
<tr><td rowspan="4">2言語</td><td>英語・中国語</td><td>①，③，④［右］，⑪，㉔，㉕</td><td>6</td><td>17.6</td></tr>
<tr><td>中国語・英語</td><td>⑩，⑭，⑱</td><td>3</td><td>8.8</td></tr>
<tr><td>ドイツ語・中国語</td><td>⑳</td><td colspan="2">1</td><td colspan="2">2.9</td></tr>
<tr><td>中国語・日本語</td><td>⑯</td><td colspan="2">1</td><td colspan="2">2.9</td></tr>
<tr><td colspan="2">合</td><td>計</td><td colspan="3">34</td><td colspan="3">100</td></tr>
</table>

表2から，34店舗の言語表示の中に1言語表示と2言語表示という2つのタイプがあることがまず分かる。そして，1言語表示には単一の中国語表示と単一の英語表示があり，2言語表示には，4種類の言語（中国語，英語，ドイツ語，日本語）が選択され，看板のメイン表示とサブ表示の関係により，それぞれ4種類の組み合わせ（「英語・中国語」「中国語・英語」「ドイツ語・中国語」「中国語・日本語」）があることが明らかである。さらに34店舗の看板の中で21店舗つまり6割強が単一の中国語表示で，13店舗つまり4割弱が他の言語が使用される表示（単一の英語表示と2言語表示）であり，英語が使用された店舗は，1言語表示と2言語表示を合わせて11店舗つまり3割以上あることが観察される。

次に表1に含まれた店名情報を表3のように抽出する。表3では1つの店舗に同一言語の店名を1つ登録する。2言語表示の店名は言語別に登録するが，同一言語内で1種類の店名しか表示されていない場合はそのまま記録し，全称と略称など数種類の店名が表示された場合は，重複登録を避けより多くの要素を含む全称店名を登録する。たとえば，⑧のように「楊慶和銀樓」と「慶和銀樓」が両方表示された場合，前者を登録する。そして，⑦の「張振新」と「官醬園」のように相補的な関係にある2種類の店名表記があった場合，構成要素に基づき1つの店名として「張振新官醬園」と登録する。

表 3

<table>
<tr><th colspan="2">言語</th><th>店名</th><th colspan="2">店名数</th><th colspan="2">%</th></tr>
<tr><td colspan="2">中国語</td><td>①昇大，②［左］大生號，③耀華號，④［左］大興恒號洋貨抄莊，④［右］協和祥號，⑤［中］費文元銀樓，⑤［左］新泰祥號東西洋貨抄莊，⑥［右］呉益生堂藥舗，⑥［左］邵萬生號，⑦張振新官醬園，⑧楊慶和銀樓，⑧［右］大源祥號，⑩麗華照像放大公司，⑪踏飛脚踏車行，⑫［下］繁華報館，⑫［上］蒙學報館，⑬雲飛，⑮［左］易安，⑮［右］大彰，⑯樂善堂書葯房，⑰［左］増泰西號洋貨抄莊，⑰［右］元昌成號洋貨抄莊，⑱老介福綢緞局，⑲寶成銀樓，⑳德隆牛莊，㉑萃豊綢緞衣莊，㉒［中］京東明酒棧，㉒［右］慶華堂分店，㉒［左］老德成染坊，㉓余永泰官醬，㉔康茂洋行，㉕瑞泰</td><td colspan="2">32</td><td colspan="2">72.7</td></tr>
<tr><td rowspan="3">外国語</td><td>英語</td><td>① CARRIAGE FACTORY，③ SZE YUEN MING PHOTOGRAPHER，④［右］YA HOO SING COMPANY，⑩ LAIWAH PORTRAIT，⑨ DENNISTON & SULLIVAN，⑬ YUEN FIE...C，⑭ LEE.TAI，⑮ SAE-TAI，⑱ LAU KAI FOOK…，㉓ KUHN & KOMOR</td><td>10</td><td rowspan="3">12</td><td>22.7</td><td rowspan="3">27.3</td></tr>
<tr><td>ドイツ語</td><td>⑳ SCHLACHTEREI W.FÜTTERER</td><td>1</td><td>2.3</td></tr>
<tr><td>日本語</td><td>⑯東京三共株式会社製品特約店</td><td>1</td><td>2.3</td></tr>
<tr><td colspan="3">合　　計</td><td colspan="2">44</td><td colspan="2">100</td></tr>
</table>

表 3 から，25 枚の写真の中で 4 言語を含む 44 種類の店名が現れ，その内わけは中国語の店名が 32（72.7%），英語の店名が 10（22.7%），ドイツ語と日本語の店名がそれぞれ 1（2.3%）となり，中国語店名は全体の 7 割以上，英語の店名は 2 割以上占めていたことが明らかになる。

限られた現存写真の映像内容に基づいた調査ではあるが，表 2 と表 3 の統計結果から，当時上海の言語景観に反映された言語選択の実態の一端が垣間見えたと言える。

江（2011：73-4，78）は，データの実数は不明だが，上海の言語景観における英語の比率が 0% から出発し，20 世紀前半の「旧上海」では 6% に，後半の「新上海」では 15% になり，2009 年の南京路での調査では 35% に達したという統計結果を示し，そして，上海言語景観における英語使用が徐々に増えたという統計結果の背景について，英語の国際化現象の一環として説明しているが，本研究では，1880～1919 年の間，つまり百年前の上海都市形成初期の言語景観にはすでに英語表示の比率が 2，3 割に達していた事実が観察された。データソースが異なる統計結果の単純比較は難しいが，イギリス人専用の居住地から出発した租界の歴史を考えれば，近代都市としての上海の言語景観はむしろ英語表示からスタートし，3. 1 で触れたように，1850 年代頃から太平天国の乱などの影響で租界に避難し移り住む中国人の増加により中国語表示の割合が急速に増えていったと想定した方がより実態に近いのではないかと思われる。

5. 1. 2　言語選択と産業・業種との関係

商店看板の言語選択にはどのような社会的要因が関与したかを観察するために，表 2 のデータをベースにそれぞれの店舗を業種別に整理し，単一中国語表示を選択した店舗を表 4，単一英語表示や 2 言語表示を選択した店舗を表 5 のようにまとめる。

表 4

商品・業種（21 店舗）	写真	表示言語
衣料品（6）	④［中］，⑧［右］，⑬［右］，⑰（左，右），㉑	中国語
食品雑貨（3）	②［左］，⑥［左］，⑬［左］	
醸造食品（3）	⑦［右］，㉒［左］，㉓	
貴金属装飾品（3）	⑤，⑧［左］，⑲	
漢方薬（2）	⑥［右］，⑦［左］	
新聞社（2）	⑫［上，下］	
画軸表装	㉒［右］	
土木建材	⑦［中］	

表 5

商品・業種（13 店舗）	写真	表示言語
写真館・カメラ器材（3）	⑨	英語
	③	英語・中国語
	⑩	中国語・英語
自動車・タクシー（2）	⑭	英語
	⑬［左］	中国語・英語
自転車	⑪	英語・中国語
洋服・洋裁	㉕	
馬車修造	①	
工芸品・骨董	㉔	
雑貨	④［右］	中国語・英語
衣料品	⑱	
牛肉	⑳	ドイツ語・中国語
本・薬品	⑯	中国語・日本語

表 4 と表 5 が示すように，単一中国語表示の店舗には「衣料品」「食品雑貨」「醸造食品」「貴金属装飾品」「漢方薬」など伝統的手工業製品を販売する店が多く，単一英語表示や英語を含む 2 言語表示の店舗には「写真館・カメラ器材」「自動車・タクシー」「自転車」「洋服・洋裁」など近代的な新興産業や外来業種がかかわる店が大半を占める現象が観察される。この結果から，当時上海の言語景観における言語選択には，商店の業種や産業形態が社会的関数要因として大きく影響したことが明らかである。

5. 1. 3　言語選択と路名管理

25 枚の写真の中に路名標識が 3 例映っているが，拡大映像で確認したところ，写真⑩には「LLOYD ROAD 勞合路」「NANKING ROAD 南京路」，写真⑪には「YUNNAN ROAD 雲南路」がそれぞれ表示されている。3 例とも上が英語，下が中国語という英語主導の 2 言語表記となっている。上海では 1845 年以降イギリス租界，フランス租界，アメリカ租界が相次ぎ形成した。1854 年に 3 つの租界が共同運営を実施し，1863 年に共同租界（「公共租界」）が成立したが，1869 年にフランス租界が脱退し，1942

年頃まで共同租界とフランス租界（図1）が併存していた。1862年5月5日にイギリス代理領事W.H.Medhurstが租界の行政機関「工部局」に「中国の省名を南北方向の道に，市名を東西方向の道に適用する命名法」を提案し，1865年9月にその提案が実施された（上海地名志編纂委員会1998：551）。「工部局」理事会の議事録によれば，1866年3月14日には英語と中国語の路名表記の問題が議題として取り上げられ，1868年6月8日にはアメリカ人宣教師Matthew Tyson Yates（1819-1888）に上海路名のローマ字表記の修正を依頼した事実が記録されている（上海市档案館2001a：292，上海市档案館2001b：252）。本論の写真映像に捉えられたこの3例の路名プレートは，当時の公的多言語表示の実態の1部であり，共同租界の行政が行った言語政策と路名管理の結果を示すものだと言うことができる。

5.2 表現内容

本論冒頭で触れたように，文字言語は，視覚によって情報伝達を行うため，その顕現様式や機能において聴覚による音声言語とは大きく異なる。同じ文字言語の中でも景観言語は，公共空間に現れた看板，標語，碑文や落書きなどが主な媒体となるため，もっぱら紙媒体を使う文献言語との間にも大きな違いが見られる。景観言語は，非紙媒体という特徴の外に，不特定多数の通行人が移動しながらでも同時に受信でき，その文字情報が当該言語を理解する受信者の視野に入ればメッセージがほぼ瞬時に解読されるなどいくつかの景観言語ならではの機能的特徴を持っている。そのような機能の影響で，景観文字は受信者が遠く離れていてもメッセージが読み取れるように，多くの場合は道路に面した建物のスペースや看板に表示され，その表現内容も新聞の見出し文のようにできるだけ簡潔に構成されることが求められる。

景観文字が現れる道路とその周辺地域や都市などは，その景観言語を取り巻く大小さまざまな言語環境，コンテクストを構成し，1つの店舗に現れた一連のメッセージは，発信者（同一店舗のオーナー），表現主旨（同一店舗の名前やその商品の宣伝）を共有するという意味で同一のテクストを構成するものと捉えることができる。そして，1ケ所のスペースや1枚の看板に書かれたひとまとまりの言語メッセージについて，ここでは景観言語の基本単位「文」とみなし，そのような言語メッセージをまとめて「景観文」と呼ぶことにする。

以下，表1にまとめられた景観文の表現内容について，「構造」と「意味」という2つの側面において具体的な考察を行うが，構造と意味の分析において，言語データの実態を踏まえ，それぞれ「店名景観文」と「店名以外の景観文」という2つの部分に分けて詳しく考察する。

5.2.1 構造分析

5.2.1.1 店名景観文の構造

歴史上の店名情報は，さまざまな文献の記録からもある程度集めることが可能であるが，文献の記載は，あくまでも文献言語のデータであり，映像記録ではないので，必ずしも実際に表示された景観言語の実態を示すものとは限らない。その意味において，われわれは写真映像のデータに基づき，かつて景観言語に反映された店名表示の実態を正確に記録し記述しておく必要がある。

まず，中国語店名景観文について，前節の表3にまとめられた内容に基づいて分析する。表3の店名景観文はすべて名詞文である。店名景観文の内部構造について分析する前に，まず全称店名のモデルを抽出する必要がある。表3の店名リストには，構造的にもっとも複雑な全称店名が6つ現れている。写真④左側の「大興恒號洋貨抄荘」，⑤左側の「新泰祥號東西洋貨抄荘」，⑥右側の「呉益生堂藥舗」，⑯の「樂善堂書葯房」，⑰左側の「増泰西號洋貨抄荘」と⑰右側の「元昌成號洋貨抄荘」である。すべての店名表示の全体構成を展望する前に，これらの全称店名が持つ基本的な構成要素を明らかにする必要がある。6つの店名景観文を構造的に分解すると，いずれも2つの部分と4つの基本的な要素によって

構成されるという共通の特徴が現れてくる。意味機能の異なる2つの部分とは，店のアイデンティティを示す「固有名称部分」と，商品種類，業務内容や経営形態などを示す「業種名称部分」であるが，この2つの部分には，さらにそれぞれ2つの要素から構成され，固有名称部分は「固有名＋接辞」，業種名称部分は「業種名＋接辞」という構造となっている。店舗形態を指す2種類の接辞は表現形態や共起語彙が異なるため，ここでは固有名に後接する接辞群を「接辞1」，業種名に後接する接辞群を「接辞2」と呼ぶことにする。4つの要素を合わせた店名全称の基本構造は，次のように示すことができる。

全称店名の基本構造：	固有名称部分		業種名称部分	
	固有名	接辞1	業種名	接辞2
例：写真④左	大興恒	號	洋貨抄	莊
写真⑥右	呉益生	堂	藥	舗

以上の分析結果に基づき，表3の中国語店名をその構成要素別に整理すると，表6のようになる。

表6の分布から，店名の構造と表示において次のような特徴が見えてきた。

(1) 中国語の店名景観文には，1要素表示から4要素表示まで4種類のタイプが存在していた。

(2) 32店舗の中で，必ず表示されるのは「固有名」である。1つの要素しか表示されない場合の5店舗には，いずれも固有名のみ表示されている。

(3) 2要素表示の店名では，基本的に「固有名＋接辞1」のパターンが使われ，7例中6例を占めている。「固有名＋業種名」の組み合わせは写真㉓の1例である。

(4) 3要素表示の店名は，すべて「固有名＋業種名＋接辞2」のパターンが使われる。このパターンは32店舗中14店舗（43.8%）を占め，全体の中でもっとも多く現れている。

(5) 固有名に後接する「接辞1」には「號，堂」の2種類が使われた。「號」(9店舗）と「堂」(3店舗）を合わせた「接辞1」は32店舗中12店舗（37.5%）を占めている。

(6) 業種名に後接する「接辞2」には，「莊（6)，樓（3)，館（2)，行（2)，房，坊，公司，局，舗，園，棧」の11種類が使われ，32店舗中の20店舗（62.5%）を占めている。その内「莊」はもっとも多く使われるが，使用対象は雑貨店，肉屋と衣料品店に限られる。「接辞2」の表現形態はバラエティに富んだ一方，どの語彙も汎用性が乏しく，使用頻度が低かった現象が観察される。19世紀後半から20世紀初頭にかけて，言語や方言環境の異なるさまざまな地域から人々が上海に流入し，急激な都市化による商店の急増により，店名接辞の語彙の間に新旧交代が行われ，激しい「生存競争」現象が生み出されたと見られる。11種類の「接辞2」の共存はそのような環境における語彙の不安定状態を示していると解釈することができる。

(7) 接辞2の「行」と「局」は，いまでは「銀行」(銀行)，「邮局」(郵便局）のように一部特定の業種に限定して使用されるが，表6が示すように，百年前には「脚踏車行」(自転車屋)，「洋行」(貿易商)，「綢緞局」(シルク布店）のような使い方も現れていた。そして，現代中国語において「～商店，～药店，～饭店，～书店，～服装店」などさまざまな業種の店に広範囲に使用される接辞「店」は32店舗の中で1例も現れなかった事実が判明した。

(8) 32店舗のすべての固有名は，2音節（文字）と3音節（文字）の2種類に分かれ，2音節は17個（53.1%)，3音節は15個（46.9%）となっている。「呉益生」「費文元」「楊慶和」「邵萬生」などが示すように，当時店名の中の固有名には中国の人名の基本的な構造が使われ，たとえ姓の使用がなくても2，3音節で構成される傾向が見られる。

以上の中国語店名の外に，表3に示された外国語の店名景観文には，次のような構造的，表現的特徴

が観察された。

（1）英語の店名には，A「固有名」とB「固有名＋業種名」の2つのタイプが観察された。Aタイプの表示は4例（⑨「DENNISTON & SULLIVAN」，⑮「LEE.TAI」，㉔「KUHN & KOMOR」，㉕「SAE-TAI」），Bタイプの表示は3例（③「SZE YUEN MING PHOTOGRAPHER」，④［右］「YA HOO SING COMPANY」，⑩「LAIWAH PORTRAIT」）となっている。

（2）英語看板の固有名には中国語の方言音に基づく表記が4例現れている。写真③の「SZE YUEN MING」（施雨明）と⑩の「LAIWAH」（麗華）には広東方言，④の「YA HOO SING」（協和祥）と⑱の「LAU KAI FOOK」（老介福）には福建方言の発音要素がそれぞれ観察されている。中国語の漢字表記はその表意的特性により音声上の縛りがゆるく，個々の漢字の発音は読み手によりめいめいに方言音で再生されることが可能であるため，漢字が使われた景観言語には地域方言の問題は表面化されない。しかし，固有名がアルファベットで表記される場合には，音声的特徴が表記の根拠となるため，店舗オーナーのネーティブ方言が顕在化し，方言の選択問題が浮上することになる。中国人オーナーの店の英語表記には，オーナーのネーティブ方言が見えると同時に，当時中国語の標準変種「官話」の規範およびその規範に基づくローマ字表記の基準が確立されていなかったという事実が反映されている。

（3）ドイツ語店名の1例（⑳「SCHLACHTEREI W.FÜTTERER」）は，中国語や英語の表示語順と異なるパターンが使われ，「業種名＋固有名」の表示となっている。

（4）日本語の看板1例（⑯）は，別の会社の代理店を表すもので，他の会社名が埋め込まれるような二重構造となっている。

表6

構成	32店舗（%）	写真番号	商店名			
			固有名称部分		業種名称部分	
			固有名	接辞1	業種名	接辞2
4要素表示	6（18.8）	⑥右	呉益生	堂	藥	舗
		⑯	樂善		書葯	房
		④左	大興恒	號	洋貨抄	荘
		⑰右	元昌成			
		⑰左	増泰西			
		⑤左	新泰祥		東西	
3要素表示	14（43.8）	⑳	徳隆		牛	
		㉑	萃豊		綢緞衣	
		⑱	老介福		綢緞	局
		⑤中	費文元		銀	樓
		⑧	楊慶和			
		⑲	寶成			
		⑪	踏飛		脚踏車	行
		㉔	康茂		洋	
		⑫上	蒙學		報	館
		⑫下	繁華			
		⑩	麗華		照像放大	公司
		㉒中	京東明		酒	棧
		㉒左	老徳成		染	坊
		⑦	張振新		官醬	園
2要素表示	7（21.9）	㉓	余永泰			
		㉒右	慶華	堂		
		②左	大生	號		
		③	耀華			
		④右	協和祥			
		⑥左	邵萬生			
		⑧右	大源祥			
1要素表示	5（15.6）	①	昇大			
		⑬	雲飛			
		⑮左	易安			
		⑮右	大彰			
		㉕	瑞泰			

日本語店名の二重構造：

固有名称部分				業種名称部分	
他の会社名				業種名	接辞
地名	固有名	業種名	接辞		
東京	三共	株式	会社	製品特約	店

写真⑯：

日本語店名景観文の末尾の接辞には「店」が使われている。百年前の上海の写真映像を見る限り，「店」は，一般名詞として⑥の「兩店」（両店舗）と㉒の「老店」（しにせ）に使用されたが，上記（7）でも触れたように，店名の接辞として使用された例はなかった。写真⑯の日本語看板は，言語景観における中国語の語彙用法と日本語（漢字）の語彙用法の接触問題，和製漢語語彙の用法と現代中国語の店名接辞「～店」の形成との関係を探る上で重要な映像資料を提供したことになろう。

5.2.1.2　店名以外の景観文の構造

店名以外の景観文の表現構造について，その文型，音節数，出現個数と比率に基づいて表7のようにまとめる。

表7

<table>
<tr><th>文型</th><th>音節数</th><th>店名以外の景観文</th><th colspan="3">出現個数</th><th colspan="3">%</th></tr>
<tr><td rowspan="4">名詞文</td><td>1音節</td><td>質</td><td colspan="2">1</td><td rowspan="4">35</td><td colspan="2">1.8</td><td rowspan="4">63.6</td></tr>
<tr><td>2音節</td><td>麵包，食物，紹酒，京莊，高粱，綢緞，圖屏，裱對</td><td colspan="2">8</td><td colspan="2">14.5</td></tr>
<tr><td>3音節</td><td>哆囉呢，羽毛緞，嗶嘰絨，哈喇呢，嗶吱絨，鷄蛋餅</td><td colspan="2">6</td><td colspan="2">10.9</td></tr>
<tr><td rowspan="2">4音節</td><td>浙甯茶食，閩廣洋糖，中西茶食，兩洋海味，花素鈕扣，嗨虎絲絨，鏡面大呢，朝頂束帶，丸散膏丹，人參鹿茸，虎鹿諸膠，各省藥材，南北雜貨，滿漢首飾，鳳冠霞珮，川廣桐油，西式名履，文武官履，時式西服，高等呢絨</td><td>20</td><td>32</td><td>36.4</td><td>58.2</td></tr>
<tr><td rowspan="6">動詞文</td><td>加煉修業，兌換赤金，修造馬車，專辦貢禮，專做對軸，真不二價，齊心協力，堅持到底，巧拍小像，精放大像，善畫油像，香港分此</td><td>12</td><td rowspan="5">20</td><td>21.8</td><td rowspan="5">36.4</td></tr>
<tr><td>6音節</td><td>揀選大小洋貨，自運川碭名土</td><td colspan="2">2</td><td colspan="2">3.6</td></tr>
<tr><td>7音節</td><td>申兩店再無分出</td><td colspan="2">1</td><td colspan="2">1.8</td></tr>
<tr><td>9音節</td><td>耀華號最考究拍小像，耀華號最精巧放大像</td><td colspan="2">2</td><td colspan="2">3.6</td></tr>
<tr><td>12音節</td><td>本行在名廠製造頭等脚踏車，久已中外馳名比衆格外○○</td><td colspan="2">2</td><td colspan="2">3.6</td></tr>
<tr><td>14音節</td><td>海運東西兩洋各種藥料從廉批發</td><td colspan="2">1</td><td colspan="2">1.8</td></tr>
<tr><td colspan="7">合　　計</td><td>55</td><td colspan="2">100</td></tr>
</table>

前節で見たように，店名によって構成された景観文はすべて名詞文だが，店名以外の景観文は，表7が示すように，名詞文と動詞文の2つのパターンに分れる。名詞文は35個で全体の6割以上で，動詞文は20個で全体の4割以下をそれぞれ占めている。そして，名詞文は1～4音節，動詞文は4～14音節の間に分布していることが分かる。その中でもっとも短いものは1音節によって形成された看板「質」（⑥右）の1例であるが，もっとも長いものは14音節の動詞文「海運東西兩洋各種藥料從廉批發」（直訳：東洋と西洋の各種輸入薬材を安く卸す）（⑯）の1例である。店名以外の景観文としてもっとも多く使用されたのは，4音節の連語（「詞組」）で，名詞文（20例）と動詞文（12例）を合わせて全体の6割弱を占め，四字熟語形式の景観文がもっとも好まれる傾向がはっきり現れている。景観文としての複文は，店頭入口の両側の看板に配置される対句形式で，2つの単文によって構成されている。6音節，9

音節と 12 音節の単文にはそれぞれ 2 つ現れているが，いずれも対句型の複文である。その中で特に写真③に現れた 9 音節の単文「耀華號最考究拍小像」と「耀華號最精巧放大像」の間には語彙の配置や韻律において整然と対称性をなしている。

5. 2. 2　意味分析

5. 2. 2. 1　店名景観文の意味

店名の固有名部分に使用された語彙の字義的意味について考察するために，表 6 の固有名に使用されたすべての漢字語彙の出現数を表 8 のようにまとめる。表 8 の括弧内は同じ漢字が出現する店舗数を示す。姓氏以外の語彙の配列順位は，出現店舗数と中国語発音のアルファベット順による。姓氏用漢字は末尾にまとめて表示する。

表 8

使用漢字（56 個）	大（5），華（4），泰（4），生（3），祥（3），成（2），徳（2），飛（2），和（2），老（2），慶（2），新（2），元（2），安，寶，昌，萃，豊，東，繁，福，恒，介，京，康，樂，麗，隆，茂，蒙，明，瑞，善，昇，踏，萬，文，西，協，興，學，耀，易，益，永，源，雲，増，彰，振，<u>費，邵，呉，楊，余，張</u>

店主の姓に由来する下線部の漢字は，その字義的意味が命名に利用されたわけではないので，ここでは意味分析の対象から外す。姓氏を除いた表 8 の使用漢字（50 個）には，次のような意味的特徴が見られる。

個々の漢字の使用状況を見ると，32 店舗の中で異なる店名に 2 回以上の使用が認められた語は次のような概念的意味を持つものである。「大，華，泰，生，祥，成，徳，飛，和，老，慶，新，元」（大きい，華やか，安泰，誕生，幸運，成長，仁徳，飛躍，協和，昔からの，喜び，新しい，元来）。特に，その内の「大，華，泰」が店名用漢字語彙としてもっとも多く使われていた。

そして，50 個の店名使用漢字を概念的意味の類義性に基づいてグルーピングすると，次の表 9 のような語彙群が抽出される。表 9 では異なる店舗に使用された漢字の延べ個数（72 個）の分布と比率を示す。（同一店舗内の看板の重複表示は含まれない）。

表 9

共通の意味概念	使用語彙	延べ数		%	
(1) 豊かさ・繁栄	華（4），寶，昌，萃，豊，繁，京，麗，茂，益	13	56	18.1	77.8
(2) 新生・成長	生（3），成（2），新（2），昇，興，増，振	11		15.3	
(3) 安泰・調和	泰（4），和（2），安，康，協，易	10		13.9	
(4) 悠久・永続	老（2），元（2），恒，萬，永，源	8		11.1	
(5) 幸せ・喜び	祥（3），慶（2），福，樂，瑞	8		11.1	
(6) 大きさ	大（5），介[3]	6		8.3	
(7) 文明・教化	蒙，文，學	3		4.2	
(8) 明るさ	明，耀，彰	3		4.2	
(9) 美徳	徳（2），善	3		4.2	
(10) 動き・速さ	飛（2），踏	3		4.2	
(11) 高さ	隆，雲	2		2.8	
(12) 方位	東，西	2		2.8	
合　　計		72		100.2	

共通の意味概念を持つ 12 のグループの中で上位半数の「豊かさ・繁栄」「新生・成長」「安泰・調和」「悠久・永続」「幸せ・喜び」「大きさ」に関する語彙群がもっとも多く使用され，店名全体の 8 割近く

にのぼる事実が見えてくる。店名使用漢字の語彙的意味特徴（表8）とその概念グループの意味特徴（表9）という2つの側面から，当時の店の名づけには，プラスの価値概念を意味する語彙が多用され，人々の生活願望や文化的価値観が反映されていたことが明らかである。上海の都市形成初期頃の言語景観に見られる店名語彙の使用傾向は，その後の百年間の店名の変化を追跡する際の1つの出発点となろう。

5.2.2.2　店名以外の景観文の意味

店名以外の景観文は，その意味内容に基づいて「商品・業務」,「広告・宣伝」と「スローガン」の3種類に分けられるが，その内わけとそれぞれの表現内容を表10のように示すことができる。表10では異なる店舗に現れた同じ景観文の延べ出現数とその比率を示す。括弧内の数字はその景観文が2店舗以上に現れた場合の数を表す。

表10

<table>
<tr><th>類別</th><th></th><th>店名以外の景観文</th><th colspan="3">延べ出現数</th><th colspan="3">%</th></tr>
<tr><td rowspan="12">商品・業務</td><td rowspan="4">衣食</td><td>【布・服飾】哆囉呢（3），羽毛緞（3），嗶嘰絨（3），滿漢首飾（3），朝頂束帶（2），哈喇呢（2），嗶吱絨，綢緞，花素鈕扣，嗨虎絲絨，鏡面大呢，鳳冠霞珮</td><td>22</td><td rowspan="4">42</td><td rowspan="12">66</td><td>26.8</td><td rowspan="4">52.1</td><td rowspan="12">80.5</td></tr>
<tr><td>【洋裁】時式西服，高等呢絨，TAILOR AND BREECHES MAKER，OUTFITTER AND MILLINER，WOOLLEN MERCHANTS</td><td>5</td><td>6.1</td></tr>
<tr><td>【鞋】西式名履，文武官履</td><td>2</td><td>2.4</td></tr>
<tr><td>【飲食】浙甯茶食（2），閩廣洋糖（2），麵包，食物，中西茶食，〇〇糖菓，紹酒，京莊，高粱，鷄蛋餅，兩洋海味</td><td>13</td><td>15.9</td></tr>
<tr><td colspan="2">【骨董・工芸】專辦貢禮，圖屏，裱對，專做對軸，DEALERS IN CURIOSITIES，ARTS & CRAFTS</td><td colspan="2">6</td><td colspan="2">7.3</td></tr>
<tr><td colspan="2">【薬品】丸散膏丹（2），人參鹿茸，虎鹿諸膠，各省藥材</td><td colspan="2">5</td><td colspan="2">6.1</td></tr>
<tr><td colspan="2">【雑貨】揀選大小洋貨，南北雜貨，GENERAL STORE KEEPER ETC</td><td colspan="2">3</td><td colspan="2">3.7</td></tr>
<tr><td colspan="2">【写真】PHOTO SUPPLIES　KODAKS ETC，KODAKS FILMS ETC</td><td colspan="2">2</td><td colspan="2">2.4</td></tr>
<tr><td colspan="2">【建材】自運川碭名土，川廣桐油</td><td colspan="2">2</td><td colspan="2">2.4</td></tr>
<tr><td colspan="2">【その他】兌換赤金（3），修造馬車，質，加煉修業</td><td colspan="2">6</td><td colspan="2">7.3</td></tr>
<tr><td rowspan="6">広告・宣伝</td><td colspan="2">【写真】耀華號最考究拍小像，耀華號最精巧放大像，巧拍小像，精放大像，善畫油像，香港分此</td><td colspan="2">6</td><td rowspan="6">14</td><td colspan="2">7.3</td><td rowspan="6">17.1</td></tr>
<tr><td colspan="2">【衣料】真不二價（3）</td><td colspan="2">3</td><td colspan="2">3.7</td></tr>
<tr><td colspan="2">【自転車】本行在名廠製造頭等脚踏車，久已中外馳名比衆格外〇〇</td><td colspan="2">2</td><td colspan="2">2.4</td></tr>
<tr><td colspan="2">【書籍・薬品】海運東西兩洋各種藥料從廉批發</td><td colspan="2">1</td><td colspan="2">1.2</td></tr>
<tr><td colspan="2">【食品・薬品】申兩店再無分出</td><td colspan="2">1</td><td colspan="2">1.2</td></tr>
<tr><td colspan="2">【装飾品】大東門分此</td><td colspan="2">1</td><td colspan="2">1.2</td></tr>
<tr><td>スローガン</td><td colspan="2">齊心協力，堅持到底</td><td colspan="3">2</td><td colspan="3">2.4</td></tr>
<tr><td colspan="7">合　　計</td><td colspan="3">79</td><td colspan="3">100</td></tr>
</table>

店名以外の景観文では，商品・業務の内容に関するものがもっとも多く，全体の8割を占め，その中で衣食関連の景観文は全体の5割以上を占めている。衣食関連の中で特に「～呢」（ウール），「～緞」

（シルク），「～絨」（毛織）などさまざまな種類の織物に関する景観文が多いことが特徴的である。景観文の意味内容から，衣食関連の商品を中心としながら骨董・工芸，薬品，雑貨，写真などの商品や業務にかかわる当時の商業活動の一側面が見えてくる。

広告・宣伝に関する景観文の中で，写真と自転車関連の景観文はいずれも自社の技術や製品の品質を訴えるもの，衣料品関連の景観文は商品の品質を保証し値引きしないことを宣言するもの，書籍・薬品店は商品種類の豊富さと価格の安さをアピールするものである。「申兩店再無分出」「香港分此」と「大東門分此」はそれぞれ本店か支店かという店舗の属性について説明する宣伝文である。

政治的スローガン「齊心協力，堅持到底」（㉕）は結束と闘いを呼びかける対句型の標語である。撮影時期は，1919 年 5 月 4 日に北京で発生しその後中国全土に広まった「五四」学生運動の時と重なっていた。このスローガンは「五四」運動と何らかの関係があったものと見られる。97 年前に取られたこの映像は，その後の上海の言語景観に繰り返し登場する政治的スローガンの原点とも言うべきものである。

5. 3　表示形態

音声言語において，情報が支障なく伝達されるためにはまず正確な発音が必要であるが，効果的な情報伝達のためには，そのほかにもさまざまな音声的手段（声の大きさ，高さ，トーンの変化，速度の調節など）が利用される。それと同様に，文字言語としての景観言語においても，情報伝達のための正確な文字使用が求められるだけではなく，情報が効果的に伝達されるためのさまざまな視覚的手段が用いられる。以下は，「書体の選択」「文字のサイズと配置」という 2 つの側面から，当時上海の言語景観に反映された景観文字の可視性，顕著性の機能について考察を加えたい。

5. 3. 1　書体の選択

書体の選択は，文字言語特有の問題である。景観文字について議論する際には書体が持つ社会的機能を無視することはできない。漢字の書体は大きく毛筆体，印刷体と各種アート文字に分けられるが，毛筆体には篆書，隷書，楷書，行書，草書などがあり，印刷体には明朝体（「宋体」）やゴシック体（「黒体」）などがあるが，アート文字にはデザイン的に工夫されたさまざまなスタイルの字体が含まれる。本論で取り上げた 25 枚の写真事例の景観文字に現れた漢字は，すべて毛筆体しかもその中の楷書に限定されるという現象が観察された。異なる看板文字の間に書き手による微妙な筆づかいの違いはあるものの，基本的書体におけるバリエーションは見られなかった。この事実から，毛筆体の楷書は，当時の日常生活に密接にかかわる景観文字，生活文字の書体として広く使われていた一面が見えた。楷書は各種書体の中で重厚で端正なイメージを持ち，唐代（618～907）以降長く中国の漢字書体の規範とされ，公的文書に多く使われていた。楷書で統一された当時上海の景観文字において，遊び心，斬新さや装飾美を競い合うよりも，正統性，権威性や見やすさが書体選択の基準として機能していたのではないかと考えられる。そして，写真⑯が示すように，日本語の看板には隷書体の漢字が使われた現象が観察された。1 例だけでははっきり結論づけられないが，この事例は当時中国と日本における漢字書体選択の規範意識の微妙な違いをのぞかせている。

25 枚の写真の中で⑨のメイン看板と右側のサブ看板の英文字フォントはセンチュリー・ゴシック（century gothic）体，左側のサブ看板はバート（bart）体で表記され，⑮の左側の英文字はゴシック体，右側はブックマン・オールドスタイル（bookman old style）で記されている。これらの現象は，当時上海の都市景観において，アルファベットによる新しい文字フォントがもたらされ，言語接触に伴い文字書体の接触現象が発生したことを意味する。彭（2015）では，同じデパートビル（「先施公司」）の同じ壁面に現れた漢字書体の変化が記録され，1940 年代以前には毛筆体の楷書，1960 年代には印刷

体の明朝，2010 年代にはアート文字の丸ゴシック体がそれぞれ使用された事実が指摘されたが，本研究で提示された百年前の写真映像は，近代上海の言語景観における文字接触の初期段階の状態，つまり中国語の景観文字の書体が毛筆体から印刷体やアート文字へと切り替わっていく以前の実態が捉えられている。

5.3.2　文字のサイズと配置

音声言語において声が大きいほど情報伝達の範囲が広くなるのと同様に，文字言語としての景観言語においては，文字が大きいほどメッセージが届く範囲が広く，受信者が増え，情報伝達の効果が大きくなる。ただし，文字サイズによるアピールは，表示スペースの確保が前提のため，景観文字のコンテクストによる制約を受け，店舗の建築様式や道路の幅などの要素に大きく影響される。

25 枚の写真の中で，②，⑥，⑦，㉓が示すように，高い外壁に囲まれた閉鎖型店舗においては白壁に 1〜3 メール四方の巨大な文字が書かれ，視覚に訴えるアピール効果がねらわれ，利用可能なスペースの中で顕著性機能を最大限に果たしていたことが分かる。このような巨大な景観文字の出現は，情報の受信者が文字を眺める距離の確保というコンテクスト条件を満たすことも必要になるが，馬車が数台並んで往来できる当時南京路とその周辺街路の道幅もそのような景観を出現させた 1 つの要因と見ることができる。一方，木造建築の開放型店舗においては④，⑤，⑧，⑬，⑰，⑲，㉑が示すように，メイン看板が店の中央上方に大きく配置されると同時に，大量の吊るし看板がかけられ，木造建築の軒下のスペースが言語表示の空間として利用されている。特に㉑では，各種横と縦の看板や旗が併用され，同一の店名情報が重複して表示され，反復表示による顕著性機能の強化がねらわれた現象が観察される。そして，閉鎖型店舗と開放型店舗の外に，写真①，③，⑩，⑪，⑫，⑭，㉕が示すように，建物の外壁に窓やショー・ウインドーが設置されるような店舗様式においては，窓と窓，窓とドアの間の壁面や柱が表示スペースとして利用され，20〜40 センチ四方の漢字が表示されていた。

以上のような事実から，建築様式が違えば，景観文字が存立する物理的条件が変わり，文字のサイズと配置スタイルも異なることが分かり，景観文字の表示形態や可視機能は建築様式などの環境的要素から影響を受けていたことが明らかである。

6. 終わりに

歴史的言語景観は，残された断片的な映像データからしか観察できない。本論では，発見された 25 枚の写真を通して，百年前頃の上海の都市形成初期における言語景観の記述研究を試みた。写真映像を提示し，そこに映った景観言語，景観文字の記録と解説を行った上で，当時上海の共同租界における言語選択，言語表現の構造的，意味的特徴，景観文字の書体，サイズと配置の実態を記述した。記述のプロセスにおいて，過去の言語景観によって可視化された言語と社会との複雑なかかわり方が浮かび上がり，言語選択と産業形態，公的多言語表示と路名管理，ローマ字表記と方言の顕在化，店名接辞のバリエーションと急激な都市化，固有名の字義的意味と文化的価値観，文字書体の選択と規範意識，文字の表示形態と建築様式など，ことばと社会との関係を示すいくつかの側面が浮彫になった。本論の研究成果が今後，言語景観の通時的研究や都市間の共時的対照研究などに応用されることを期待したい。

注

（1）図 1 は，筆者が潘，李（2004：33）の「上海租界示意圖」をベースに作成したものである。

（2）仝（2016：301）の説明だけでは，広東語の「雨」のローマ字表記として「YU」ではなく，韻尾に歯茎鼻音がつく「YUEN」が使われたのはなぜかという疑問が残る。漢字「雲」の誤りか，広東語の下位方言の発音

かのどちらかの可能性がある。

（3）『漢語大詞典』（第1巻）では「介」の1つの意味として「大」と解釈し，写真⑱の店名「老介福」の語源ともなる熟語「介福」について「大福」と解釈している（漢語大詞典編輯委員会 1986 年　上海辞書出版社：1072，1076）。

図像出典：

写真①：姚麗旋 2010『美好城市的百年変遷』上海大學出版社 p 278
写真②：劉萍 2012『近世中國映像資料』（第1輯，第12冊）黄山書社 p 142
写真③：仝冰雪 2016『中國照相館史』中国摂影出版社 p 304
写真④：姚麗旋 2010『美好城市的百年変遷』上海大學出版社 p 28
写真⑤：姚麗旋 2010『美好城市的百年変遷』上海大學出版社 p 278
写真⑥：松原岩五郎 1901『磯ちどり』（『女學世界』第1巻第15号）博文館　口絵
写真⑦：姚麗旋 2010『美好城市的百年変遷』上海大學出版社 p 273
写真⑧：姚麗旋 2010『美好城市的百年変遷』上海大學出版社 p 278
写真⑨：李新 2006『老上海 200 旧影』上海人民美術出版社 p 136
写真⑩：Bennett,T（泰瑞・貝内特）2014『中國攝影史』中國攝影出版社 p 33
写真⑪：鄧明 1996『上海百年掠影』上海人民美術出版社 p 62
写真⑫：劉香成，凱倫・史密斯 2010『上海 1842-2010 一座偉大城市的肖像』世界圖書出版公司 p 61
写真⑬：姚麗旋 2010『美好城市的百年変遷』上海大學出版社 p 275
写真⑭：徐宗懋 2011『辛亥革命現場報道 西洋画刊新聞文献選集』大隗文化出版股份有限会社 p 227
写真⑮：徐宗懋 2011『辛亥革命現場報道 西洋画刊新聞文献選集』大隗文化出版股份有限会社 p 227
写真⑯：横浜開港資料館 1993『横浜と上海 ── 二つの開港都市の近代』横浜開港資料館 p 83
写真⑰：中華網 / 老照片圖庫 / 老上海照片：
http://tuku.news.china.com/history/html/2006-01-20/2024241_744560875.htm#pic1-33
写真⑱：上海歴史圖片：http://211.144.107.196/oldpic/node/20130
写真⑲：程朝雲 2012『近世中國映像資料』（第1輯，第8冊）黄山書社 p 26
写真⑳：Arnold Wright.（ed.）1908 *Twentieth Century Impressions of Hongkong, Shanghai, and other Treaty Ports of China*. Lloyd's Greater Britain Publishing Company,Ltd.（夏伯銘編譯 2011『上海 1908』復旦大學出版社 p 294）
写真㉑：李新 2006『老上海 200 旧影』上海人民美術出版社 p 99
写真㉒：伊捷 2012『近世中國映像資料』（第1輯，第10冊）黄山書社 p 214
写真㉓：姚麗旋 2010『美好城市的百年変遷』上海大學出版社 p 524
写真㉔：朱紀華 2014『外灘影像 1841-1949』上海世紀出版集團 p 84
写真㉕：史梅定 1996『追憶 ── 近代上海圖史』上海古籍出版社 p 124

参照文献：

Backhaus, Peter（2007）*Linguistic Landscapes: A Comparative Study of Urban Multilingualism in Tokyo*. Clevendon: Multilingual Matters.

Ben-Rafael, E., Shohamy, E., Amara, M.H., and Trumper-Hecht, N.（2006）Linguistic landscape as symbolic construction of the public space: The case of Israel. *International Journal of Multilingualism 3*（*1*）. 7-30.

Bloomfield, Leonard.（1933）*Language*. Holt, Rinehart and Winston, Inc.

Crystal, David（1987）*The Cambridge Encyclopedia of Language*. Cambridge University Press.

Huebner, T.（2006）Bangkok's linguistic landscape: Environmental print, codemixing, and language change, *International Journal of Multilingualism 3*（*1*）. 31-51.

Hult, F.M.（2009）Language ecology and linguistic landscape analysis. In: Shohamy, E. and Gorter, D.（eds）*Linguistic Landscape: Expanding the scenery*. London: Routledge. 88-107.

Landry, R. and Bourhis, R. Y.（1997）Linguistic landscape and ethnolinguistic vitality. *Journal of Language and Social Psychology 16*（*1*）. 23-49.

Lanza, E. and Woldemariam, H.（2009）Language Ideology and Linguistic Landscape: Language Policy and Globalization in a Regional Capital of Ethiopia. In: Shohamy, E. and Gorter, D.（eds）*Linguistic Landscape: Expanding the scenery*. London: Routledge. 189-205.
Shohamy, E. and Gorter, D.（eds）*Linguistic Landscape: Expanding the scenery*. London: Routledge.
漢語大詞典編輯委員会（1986）『漢語大詞典』（第 1 巻）上海辞書出版社。
江源（2011）「言語景観に関する計量的研究」『明海日本語』（第 16 号）明海大学。71-80。
上海市档案館（2001a）『工部局董事会会議録』（第 2 冊）上海古籍出版社。
上海市档案館（2001b）『工部局董事会会議録』（第 3 冊）上海古籍出版社。
上海租界志編纂委員会（2001）『上海租界志』上海社会科學院出版社。
上海地名志編纂委員会（1998）『上海地名志』上海社会科學院出版社。
庄司博史，バックハウス，クルマス（2009）『日本の言語景観』三元社。
沈辰憲（1996）「南京路房地産的歴史」『中華文史資料文庫』第 13 巻，548-553。
高田智和（2010）「「景観文字」の記録と分析のために」『世界の言語景観 日本の言語景観』桂書房。149-165。
田中春美（1988）『現代言語学辞典』成美堂。
張守祥（2011）「中国（黒竜江省）における言語景観」『世界の言語景観 日本の言語景観』桂書房。24-37。
中井精一，ダニエル・ロング（2011）『世界の言語景観 日本の言語景観』桂書房。
潘君祥，李家璘（2004）『中國的租界』上海古籍出版社。
米麗英，岸江信介（2010）「上海における言語景観について」『言語文化研究』（18），徳島大学。165-181。
彭国跃（2015）「上海南京路上语言景观的百年变迁 —— 历史社会语言学个案研究」『中国社会语言学』（第 24 期）商务印书馆。52-68。
彭国跃（2017）「上海南京路上语言景观的百年变迁 —— 历史社会语言学个案研究（补正）」『非文字資料研究』（第 14 号）神奈川大学日本常民文化研究所 非文字資料研究センター。159-175。
馬長林（2003）『租界裏的上海』上海社会科學院出版社。